

2024 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	中東・イスラーム研究センター
---------	----------------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究センターの実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこないでできるだけわかりやすく記述してください。

■当センターの設置とその目的

2019 年 10 月 1 日に設置された「中東・イスラーム研究センター (Center for Middle Eastern and Islamic Studies, CMEIS [シーメイス])」は、立命館大学の総合私立大学としての強みを最大限に活かし、多様な学問的背景を持ったスタッフの力を結集することで、①学際性を特長とする総合的な中東・イスラーム研究を推進していくこと、そして、②最先端の研究の追求を通して、中東・イスラームに関する総合的な知を備えた次世代の研究者・専門家の育成に取り組むことを目的とし、これまで活動が続けてきた。現状、(1) 政治・国際関係、(2) 文化・ジェンダー、(3) 歴史・広域ネットワーク、(4) 社会・経済システムの 4 つのユニット (研究領域) を組織し、個別の研究の推進に取り組んでいる。

■2024 年度の活動

①について、過年度より引き続き 4 つのユニットを基本単位として国内外での研究活動に注力した。主たる研究成果は以下のとおりである。

出版

- ・Dai YAMAO and Kota SUECHIKA, “Measuring the Evolution of Arab States’ Perceptions of the Iranian Threat: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic-Language State Media, 2010–20,” *British Journal of Middle Eastern Studies*, Vol. 51, No. 3, 2024.
- ・末近浩太・松尾昌樹編『中東を学ぶ人のために』世界思想社, 2024 年.
- ・Takuro KIKKAWA, “Jordan’s Regime Security Under the COVID-19 Pandemic: Securitisation Against Visible and Invisible Threats,” *Alternatives*, online first, 2024 など.
- ・CMEIS Report No. 13 を刊行

研究会などの開催

- ・CMEIS Book Launch を計 4 回主催 (オンライン開催)
- ・現代中東研究コロキウム研究会を計 3 回主催 (ハイブリッド開催)
- ・ガザ情勢・紛争拡大を受け、緊急ワークショップと特別セミナーを計 2 回主催 (オンライン開催) (現代中東研究コロキウム特別シンポジウム「第 X 次中東戦争はなぜ続くのか? : イスラエルとハマースの戦闘開始から 1 年」、特別セミナー「レバノン危機の深層を探る」)

②について、主たる成果は以下のとおりである。

- ・米田優作 (大学院生) : 国内学会報告 1 回、国際学会報告 1 回、英語での研究集会報告 1 回
- ・ウェルズ桜 (大学院生) : 論文 1 本、国際学会報告 1 回、その他の研究活動 3 本
- ・モハメド・エタウィ (大学院生) : 論文 1 本、国際学会報告 1 回、研究集会報告 1 回 (すべて英語)
- ・足立真理 (学振 PD) : 単著 1 冊、書評 1 本、国内学会報告 1 回、英語での研究集会報告 1 回

II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2025 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、必ず若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割		氏名	所属	職位
センター長		末近浩太	国際関係学部・	教授
運営委員		阿良田麻里子	食マネジメント学部	教授
		吉川卓郎	APU アジア太平洋学部	教授
		小杉泰	立命館アジア・日本研究機構	教授
		嶋田晴行	国際関係学部	教授
		鳥山純子	国際関係学部	教授
		馬場多聞	文学部	教授
		山下範久	グローバル教養学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等) 学内教員 (専任教員、研究系教員等)		池端路子	衣笠総合研究機構	研究教員(准教授)
		小澤一郎	文学部	任期制教員B(准教授)
		竹田敏之	立命館アジア・日本研究機構	教授
		ダヌシュマン イドリス	国際関係学部	准教授
		ハシヤン アンマール	立命館アジア・日本研究機構	特別招聘研究教員(准教授)
		アシャデオノ フィトリオ	政策科学部	任期制教員(助教)
		ラシット フセイン	グローバル教養学部	任期制教員B(准教授)
学内の 若手研究者	専門研究員 研究員 初任研究員			
	補助研究員・リサーチアシ スタント			
	大学院生	米田優作	国際関係研究科	博士課程後期課程
		ウェルズ桜	国際関係研究科	博士課程後期課程
		モハメド エタウィ	国際関係研究科	博士課程後期課程
		アバーディー ヘバ	テクノロジー・マネジメント研究科	博士課程後期課程
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・ 博士前期課程院生等)		佐藤たき	食マネジメント研究科	博士課程前期課程
客員協力研究員		足立真理	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)		黒田彩加	京都大学大学院アジア・アフリカ地 域研究研究科	准教授
		桐原翠	京都府立大学農学食料学部	講師
		望月葵	公立小松大学国際文化交流学部	講師
センター構成員 計 24 名		(うち学内の若手研究者 計 4 名)		

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2025年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	末近浩太	『中東を学ぶ人のために』	編著	2024年6月	世界思想社	松尾昌樹	p. 304
2	鳥山純子	「第8章 家族関係から考える、講義の『一月二十五日革命』」	分担執筆	2024年7月	『「アラブの春」のアクチュアリティ エジプト一月二十五日革命を中心にみるグローバル化下での日常的抵抗』山川出版社、371p.	大稔哲也編	pp.216-234
3	Junko Toriyama	“Neo-Patriarchy or Ultimate Love?: Thinking mommy’s boy culture in Morocco”	分担執筆	2025年1月	Tamo #1 Rabat, Morocco: Kulte Editions, 2024, 152p.	Naji, Yasmina (Ed.)	pp. 50-75
4	竹田敏之	「言語と宗教」	分担執筆	2024年6月	『中東を学ぶ人のために』世界思想社、304p.	末近浩太、松尾昌樹編	pp.16-30
5	馬場多聞	「イエメン・ラスール朝とラバ：モノをめぐる王権とネットワーク」	分担執筆	2025年1月	『権力とネットワーク（イスラームからつなぐ5）』東京大学出版会、264p.	近藤信彰編	pp. 37-55.
6	馬場多聞	「海を渡るということ：14世紀のイエメン・ラスール朝の裁判官と大宦官」	分担執筆	2025年2月	『移動の文明誌：「自由」と「不自由」の狭間で』思文閣出版、464p.	鈴木英明編	pp. 233-258
7	馬場多聞	終章「座談会」	分担執筆	2025年2月	『移動の文明誌：「自由」と「不自由」の狭間で』思文閣出版、464p.	鈴木英明編	pp. 423-447
8	黒田彩加	「1月25日革命以降のイスラーム諸勢力の競合と言説：信仰と権力をめぐって」	分担執筆	2024年7月	『アラブの春のアクチュアリティ：エジプト1月25日革命を中心にみるグローバル化下での日常的抵抗』山川出版社、371p.	大稔哲也編	pp.165-184
9	黒田彩加	「ムスリム知識人が問うアラブ世界の近代：イスラーム諸学の復興とヒューマニズムをめぐる挑戦」	分担執筆	2024年9月	『中東を読み解く：思想・文化・信仰の遺産（東大駒場連続セミナー）』	高橋英海・鈴木啓之・宇田川彩著	pp.39-56
10	Midori Kiriara	“Dual Nature of Shariah Compliance and Diversity of Halal Standardization: A Comparative Study on Malaysia and Japan.”	分担執筆	2025年3月	The Halal Industry in Asia: Perspectives from Brunei Darussalam, Malaysia, Japan, Indonesia and China	eds. Rozaidah Idris, Mohammad Ali Tareq, Siti Fatimahwati Pehin Dato Musa	pp. 41-55
11	足立真理	『イスラームの慈善の論理と社会福祉—現代インドネシアにおけるザカートの革新と地域の主体』	単著	2025年2月	明石書店		p. 216

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Kota Suechika	Measuring the Evolution of Arab States’ Perceptions of the Iranian Threat: A Quantitative Text Analysis of Major Arabic-Language State Media, 2010–20”	共著	May, 2024	“British Journal of Middle Eastern Studies,” Vol.51, No.3	Dai Yamao	http://dx.doi.org/10.1080/13530194.2024.2345882	有
2	末近浩太	「中東に横行する権威主義：民主化は進むのか」	単著	2024年6月	『Voice』、7月号、通巻559号		pp. 136-143	無

3	末近浩太	「レバノン侵攻と「対テロ戦争」の論理」	単著	2024年11月	『地平』12月号		pp. 50-53	無
4	末近浩太	「岐路に立たされるヒズボラと「抵抗の枢軸」	単著	2024年12月	『外交』Vol.88、2025年1/2月号		pp. 60-65	無
5	末近浩太	「シリア・アサド政権の崩壊：シリア再建に立ちはだかる四つの問題」	単著	2025年1月	『世界』No.990 2025年2月号		pp.99-103	無
6	末近浩太	「文明の衝突」	単著	2025年1月	日本比較政治学会編『比較政治学事典』丸善出版		pp. 156-157	無
7	末近浩太	「イスラーム政党」	単著	2025年1月	日本比較政治学会編『比較政治学事典』丸善出版		pp. 304-305	無
8	末近浩太	「紛争と非国家主体」	単著	2025年1月	日本比較政治学会編『比較政治学事典』丸善出版		pp. 468-469	無
9	小杉泰	「イスラーム世界の生命力と国際社会での望み」	単著	2024年9月	『Voice』10月号、通巻562号		pp. 226-235	無
10	小杉泰	「知の先達たちに聞く(16): 小杉泰先生をお迎えして」	単著	2025年3月	『イスラーム世界研究』第18巻		pp. 111-167	無
11	山下範久	「近世のグローバリティと日本型「交易港」としての長崎」	単著	2024年12月	『比較文明』第40号		pp. 97-106	無
12	Takuro Kikkawa	“Jordan’s Regime Security Under the COVID-19 Pandemic: Securitisation Against Visible and Invisible Threats.”	単著	2024年10月	<i>Alternatives</i> , 0(0).		https://doi.org/10.1177/03043754241293969	
13	嶋田晴行	「カナダへ渡ったアフガニスタン移民：2019-2020年と2023年の調査結果から」	単著	2024年	『立命館国際研究』第37巻第2号		pp. 1-15	無
14	Haruyuki Shimada	“Aid paradox for unrecognized governments: The Taliban and aid,”	単著	March, 2025	<i>Development Policy Review</i> , Vol.43, No.3		web edition	有
15	鳥山純子	「書評 クォンキム・ヒョンヨン編『被害と加害のフェミニズム：#Me Too以降を展望する』	単著	2024年8月	『立命館アジア・日本研究学術年報』第5号		pp. 176-180	無
16	ダヌシュマン・イドリス	「イスラームにおける「明文 (Naṣṣ)」の意味の多層性と解釈方法の多様性——ハナフィー学派における意味の四層論とスーフィーによるクルアーン解釈法・イシャーラ (ishāra) の位置づけ」	単著	2025年3月	『イスラーム世界研究』		pp. 168-184	有
17	ハシヤン・アンマール	「東南アジアにおけるイスラーム経済活性化の動向と研究展望：アジア研究者ネットワークの構築を軸として」	単著	2024年8月	『立命館アジア・日本研究所学術年報』第5号		pp. 82-87	
18	Fitrio Ashardiono	“Optimizing the potential of Indonesian coffee: a dual market approach”	共著	December, 2024	<i>Cognent Social Science</i> , Vol.10, No. 1	Agus Trihartono	https://doi.org/10.1080/23311886.2024.2340206	有
19	池端路子	「ガザ危機が揺るがすヨルダンの安全保障：2023年10月7日以降のパレスチナ問題対応」	単著	2024年9月	『中東研究』第551号		pp. 32-43	無
20	Midori Kirihaara	"Whose Accountability?: Reflections on Halal Food Production and	単著	2025年3月	<i>Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies</i> , Vol. 18		pp. 30-43	有

		Consumption in the Recent Global Islamization"						
21	ウエルズ 桜	「『黄金の精錬』にみる正義と文明の関係性—鑑文学としての観点から—」	単著	2024 年 5 月	『政治思想研究』 24 卷		pp. 250-281	有
22	Mohamed Ettawy	"Analysis of Crime and Accident Coverage in Egyptian Press in Late Mubarak's Rule"	単著	2025 年 3 月	Kyoto Bulletin of Islamic Area Studies, Vol. 18		pp. 64 -110	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	Kota Suechika	"Sectarianism and Electoral Corruptions in Lebanon: Evidence from the 2024 Public Opinion Survey,"	May, 2024	The 26th Mediterranean Studies Association Annual International Congress, University of Valencia, Valencia, SPAIN	
2	Kota Suechika	"(Anti-)Sectarianism and Political Institutions in Lebanon: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah's Al-Manar (2017-23)"	July, 2024	BRISMES Annual Conference 2024, Lancaster University, UK	
3	Kota Suechika	"Implicit Rules of Engagement between Hezbollah and Israel: The Gaza War's Impact on Lebanon"	November, 2024	The International Symposium on Contemporary International Conflicts and Their Impacts on International Security, Institute of Diplomacy and International Affairs, Ministry of Foreign Affairs, Taipei, TAIWAN	
4	Kota Suechika	"Sectarianism and a Quasi-two-party System in Lebanon: Evidence from the Conjoint Experiment"	November, 2024	中華民國國際關係學會 2024 年國際關係年會, Association of International Relations (R.O.C.) Annual Meeting and Conference, Taichung (Taiwan)	Dai Yamao
5	Kota Suechika	"Contested Identities between Sectarianism and Nationalism in Lebanon: Evidence from the 2024 Survey Experiment"	November, 2024	Middle East Studies Association (MESA), The 58th Annual Meeting, online	
6	Kota Suechika	"Connecting the Dots: New Initiatives for Middle Eastern 'Area Studies 2.0'"	December, 2024	Keynote Speeches, The 15th AFMA Conference, Doshisha University, Kyoto, JAPAN	
7	Kota Suechika	"Electoral Fraud and Sectarian Oligarchy in Lebanon: Evidence from a Survey Experiment"	December, 2024	The 15th AFMA Conference, Doshisha University, Kyoto, JAPAN	
8	Kota Suechika	"(Anti-)Sectarianism and Political Institutions in Lebanon: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah's Al-Manar (2017-23)"	March 22, 2025	International Conference on Constructing New Paradigm for Security Studies in the Age of Hybrid Warfare in the Middle East and Eurasia, Doshisha University, Kyoto	
9	末近浩太	「レバノンへの波及：ヒズブッラーの対応」	2024 年 8 月	緊急オンラインセミナー「ガザ戦争の新局面：ハニーや暗殺を受けて」オンライン開催（千葉大学グローバル関係融合研究センター）	
10	末近浩太	「レバノン：「ヒズブッラーの戦争」とその内政への影響」	2024 年 10 月	現代中東研究コロキウム特別シンポジウム「第X次中東戦争はなぜ続くのか？：イスラエルとハマースの戦闘開始から1年」、立命館大学・東京外国語大学（ハイブリッド開催）	
11	末近浩太	「ヒズブッラーと国軍：ガザ危機拡大によるレバノン内政への影響」	2024 年 10 月	特別セミナー「レバノン危機の深層を探る」、立命館大学中東・イスラーム研究センター オンライン開催	
12	Yasushi Kosugi	"Why Halal Should Go Global: Seven Reasons"	November, 2024	INTERNATIONAL CONFERENCE ON ISLAMIC AND HALAL ECONOMIC STUDIES (ICIHES 2024),	

				Johar Bahru, Malaysia	
13	小杉 泰	「イスラームの特質と現代における挑戦：宗教復興で変容する国際関係の中でのイスラーム世界の位置づけ」	2024 年 5 月	宗教と現代世界研究会（PHP 総研、鹿島平和研究所）	
14	小杉 泰	「中東地域研究とイスラーム思想史の営み 50 年を超えて」	2025 年 1 月	「知の先達たちに聞く」講演会）京都大学、イスラーム地域研究センター	
15	Norihisa Yamashita	“Wet and Dry Relational Turns: Re-Exploring the Impact of the Anthropocene on the Historical Sociology of the International Relations”	April 2024	International Studies Association 2024 Annual Convention, San Francisco	
16	Takuro Kikkawa	“External Crisis’s Impact on the Regime Reconfiguration: Jordan under 1990-91 Gulf Crisis.”	November 2024	中華民國國際關係學會 2024 年國際關係年會, Taichung	Shun Watanabe
17	Takuro Kikkawa	“Rebuilding the kingdom: Jordan in the 1990-1991 Gulf crisis and its consequences.”	December 2024	15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations, Kyoto	Shun Watanabe
18	鳥山純子	「イスラーム・ジェンダー学科研と考えるコロナリティーインターセクショナルリティ偏重批判と第三世界フェミニズムの再考から」	2024 年 4 月	東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題『現代世界の分断と共生の検討：イスラーム・ジェンダー学的方法論から』、東京外国語大学本郷サテライトキャンパス	
19	Junko Toriyama	“From a Gender Norm to the Heritage: A Case of Moroccan Mom’s Boy”	December, 2024	The 15th AFMA Conference, Doshisha University, Kyoto, JAPAN	
20	竹田敏之	「アラブ詩の伝統と革新：湾岸諸国におけるオーラル文化の再興」	2024 年 5 月	日本中東学会第 40 回年次大会、東京大学	
21	馬場多聞	「ラスール朝とラバ」	2024 年 7 月	MINDOWS 第 10 回研究会、国立民族学博物館	
22	Ichiro OZAWA	"Baluchs as a Maritime People: Baluch Maritime Activities in the First Half of the 20th Century"	2024 年 8 月	9th IMHA International Congress of Maritime History: Oceans: Local Mobility, Global Connectivity, Korea National Maritime and Ocean University, Busan, Korea	
23	ダヌシュマン イドリ ス	「トルコにおける「穏健イスラーム」概念の再考」	2024 年 5 月	2024 年度第 1 回穏健イスラーム（科研 A）研究会	
24	ダヌシュマン イドリ ス	「「トルコ・イスラーム総合論」か「イスラーム・トルコ総合論」：トルコ保守右派におけるトルコ性とイスラームの位置づけをめぐる議論」	2025 年 2 月	スーフィズム・聖者信仰研究会合宿 2025、上智大学イスラーム地域研究所	
25	Ammar Khashan	“Establishing a Foundation and a Methodology for Islamic Economics Research: Investigating Classical Islamic Resources and Utilizing Philological Studies”	2024 年 10 月	Expanding Islamic Economies and Emerging Intellectual Specialists: Graduate Education, Research Institutions, and the Ummah’s Aspirations (UIII-RU International Symposium), Ritsumeikan University (Room B412, Osaka Ibaraki Campus), Japan	
26	Ammar Khashan	“Semantic and Social Implications of Wafa, Halal, and Tayyib in Islamic Welfare System: An Overview and Research Findings in Recent Trends in Islamic Economic Studies in Japan”	2024 年 11 月	2nd International Conference on Islamic and Halal Economic Studies (ICIHES 2024), DoubleTree Hilton Johor Bahru, Malaysia	
27	Ammar Khashan	“The Semantic Web of Wafa: Linking the Foundations of Trust in Islamic Contracts to Principles of Halal Food in Quranic Discourses”	2025 年 2 月	The Sixth International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development: Sustainability, Economic Equity, and Social Values in Asia: Explorations in Islamic Economics, Trust Studies, and Halal Studies (Ritsumeikan University, Osaka Ibaraki Campus), Japan	
28	Ammar Khashan	“Mapping the Concept of Wafa as the Basis of Trust in the Islamic Contract System: A Semantic Study on the	2025 年 2 月	The 4th Islamic Trust Studies International Symposium “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust	

		Cluster of Wafa-Related Terms”		Building for Middle East Peace” (Poster Presentation) , Hongo Campus, The University of Tokyo, Japan	
29	Ammar Khashan	“Drawing a Blueprint for Halal Economic Studies based on Quranic Semantics: An Attempt to Integrate Epistemological Maps of Halal and Wafa”	2025 年 3 月	International Workshop Strengthening Accountability in Islamic Economic Systems: With Special Emphasis on Trust-Building and Halal Standards , Ritsumeikan University (online)	
30	Fitrio Ashardiono	“Securing the Future of Indonesian Coffee: Bottom-up Climate Change Adaptation Policy”	June, 2024	2024 IASNR Conference, Cairns, Queensland, Australia	
31	Kuroda, Ayaka	“Creating a Digital Space for Islamic Discourse by Egyptian Lay Preachers: Preliminary Analysis of Their Media Strategy on YouTube”	December, 2024	The 15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations (AFMA), Doshisha University, Kyoto, Japan	
32	黒田彩加	「宝塚歌劇で描かれた北アフリカ」	2025 年 2 月	東京外国語大学フィールドネット・ラウンジ企画「タカラヅカの中東・イスラーム：宝塚歌劇に見る日本的オリエンタリズム」	
33	黒田彩加	「イスラーム思想の再生とアラブの未来：エジプト知識人の提言」	2025 年 1 月	特別セミナー「在米アラブ・ムスリム知識人の現在ーディアスポラの眼差す中東ー」 静岡県立大学	
34	黒田彩加	現代アラブにおける宗教復興と「中道的イスラーム（ワサティーヤ）」のポリティクス	2024 年 8 月	2024 年度第 2 回穏健イスラーム研究会（科研基盤 A「非アラブにおける穏健イスラームの研究ーインドネシア・パキスタン・トルコの事例から」(22H00034 代表：東長靖)）	
35	Fukiko Ikehata	The Organization of Islamic Cooperation as a Platform for Member States to Showcase and Negotiate "Official Islam": Analyzing Consensus and Rivalry”	July, 2024	BRISMES Annual Conference 2024, Lancaster University, UK	
36	Fukiko Ikehata	"Identity-Based International Politics: The Case of the Organization of Islamic Cooperation's Foreign Aid Diplomacy,"	November, 2024	Middle East Studies Association (MESA), The 58th Annual Meeting, online	
37	Fukiko Ikehata	“Human Rights in Islamic Countries: Local Reforms and the Impact of International Connectivity”	2025 年 2 月	第 4 回イスラーム信頼学国際会議 Islamic Trust Studies International Symposium “Overcoming the Divide: Connectivity and Trust Building for Middle East Peace”（ポスター発表）, 東京大学	
38	望月葵	「シリア難民の帰属と生存戦略：ヨルダン、ドイツ、スウェーデンの地域横断的な視点から「難民危機」を考える」	2024 年 6 月	難民研究フォーラム研究会、オンライン	
39	足立真理	「インドネシアにおけるザカートに関する Twitter（現 X）分析：オンライン空間での敬虔さに着目して」	2024 年 5 月	日本中東学会第 40 回年次大会、東京大学	
40	Mari Adachi	“Strengthening Faith Through Sacrifice: Motivation Factors of Qurban Case Study Batur, Banjarnegara, Central Java, Indonesia.”	2025 年 3 月	International workshop of "Strengthening Accountability in Islamic Economic Systems: With Special Emphasis on Trust-Building and Halal Standards", Ritsumeikan University, Osaka Ibaraki Campus, Online	Yuni Yulia
41	米田優作	「現代エジプトにおけるサラフィー主義者のジハード観：ダアワ・サラフィーヤの生存戦略に着目して」	2025 年 5 月	日本中東学会第 40 回年次大会,東京大学	
42	Yusaku Yoneda	“Exploring Salafist Views on the Palestine Question: Egypt’s al-Da’wa al-Salafiya and the ‘Gaza War’ after ‘October 7’”	December, 2024	The 15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations (AFMA), Doshisha University, Kyoto	
43	Yusaku Yoneda	“The Glocal Turn of Salafism, or Salafism Studies?: Reconsidering ‘Post-Salafism’ from the Case of Egypt’s al-	February, 2025	The 2nd GSMEIAS Colloquium (JP/EN Bilingual International Workshop), Graduate Student Society for Middle	

		Da'wa al-Salafiyya"		Eastern and Islamic Area Studies (GSMEIAS), The Ritsumeikan Tokyo Campus	
44	Sakura Wells	"The Lands of the Franks: Rifā'a al-Ṭaḥṭāwī's Depiction of Bilād al-Ifranj and its Function in Takhliṣ al-Ibriz fī Talkhīṣ Bārīz"	December, 2024	The 15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations (AFMA), Doshisha University, Kyoto	
45	Mohamed Ettawy	"Al-Azhar's Role in Palestinian Reconciliation: Religious Authority as a Mediator in the Hamas-Fatah Conflict"	December, 2024	The 15th Conference of the Asian Federation of Middle East Studies Associations (AFMA), Doshisha University, Kyoto	
46	Mohamed Ettawy	"Al-Azhar and Conflict Mediation: The Case of the Palestinian Dispute"	February, 2025	The 2nd GSMEIAS Colloquium (JP/EN Bilingual International Workshop), Graduate Student Society for Middle Eastern and Islamic Area Studies (GSMEIAS), The Ritsumeikan Tokyo Campus	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	Graduate Seminar, Cinema(s) of Protest, Resistance and Decolonisation in a Global Perspective with Janna Houwen	立命館大学衣笠キャンパス恒心館 208号教室	2024年4月	48	主催：科研（若手）「2011年革命後エジプト都市部における『ろくでなし』社会研究」、共催：科研費基盤（B）「中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から」/CMEIS（立命館大学中東イスラーム研究センター）
2	Joanna Houwen 博士公開セミナー 「移動という選択：MENA 地域におけるエッセイ・フィルムから」 (Migration Choices in Essay Films from the MENA region)	立命館大学東京キャンパス教室5	2024年4月	11	主催：科研（若手）2011年革命後エジプト都市部における『ろくでなし』社会研究、共催：科研費基盤（B）中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究—移動の視点から/CMEIS（立命館大学中東イスラーム研究センター）
3	UIII·RU International Symposium "Expanding Islamic Economies and Emerging Intellectual Specialists: Graduate Education, Research Institutions, and the Ummah's Aspirations"	立命館大学茨木キャンパス B412、オンライン	2024年10月	70	主催：立命館大学アジア・日本研究所、インドネシアイスラム国際大学、科研費基盤(B)「アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開」
4	The Sixth International Colloquium on Asian Paths of Civilization and Development: Sustainability, Economic Equity, and Social Values in Asia: Explorations in Islamic Economics, Trust Studies, and Halal Studies	立命館大学茨木キャンパス B412、オンライン	2025年2月	30	主催：立命館大学アジア・日本研究所、科研費学術変革領域研究(A)「イスラーム法のワファー(契約の誠実履行)の概念と適用」、科研費基盤(B)「イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究」
5	International Workshop "Strengthening Accountability in Islamic Economic Systems: With Special Emphasis on Trust-Building and Halal Standards"	立命館大学茨木キャンパス、オンライン	2025年3月	30	主催：立命館大学アジア・日本研究所、科研費学術変革領域研究(A)「イスラーム法のワファー(契約の誠実履行)の概念と適用」、科研費基盤(B)「イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究」
6	CMEIS Book Launch 23 「服従と反抗のアーシュラー 現代イランの宗教儀礼をめぐる民族誌」	オンライン	2024年6月	19	
7	CMEIS Book Launch 24 「中東を学ぶ研究者が語る経験と魅力」	オンライン	2024年10月	91	立命館先進研究アカデミー、立命間アジア・日本研究所
8	CMEIS Book Launch 25 「「アラブの春」のアクチュアリティ エジプト一月二十五日革命を中心にみるグローバリゼーション下の日常的抵抗」	オンライン	2025年2月	39	
9	CMEIS Book Launch 26 「権力とネットワーク イスラームからつなぐ5」	オンライン	2025年3月	20	共同主催：科研費学術変革領域研究(A)イスラーム信頼学B01「イスラーム共同体の理念と国家体系」
10	現代中東研究コロキウム第9回研究会	東京外国語大学本	2024年7月	30	共同主催：現代中東政治研究ネットワーク

		郷サテライト（ハイブリッド開催）			
11	現代中東研究コロキウム特別シンポジウム「第X次中東戦争はなぜ続くのか？：イスラエルとハマースの戦闘開始から1年」	立命館大学朱雀キャンパス・東京外国語大学本郷サテライト（ハイブリッド開催）	2024年10月	165	共同主催：現代中東政治研究ネットワーク
12	特別セミナー「レバノン危機の深層を探る」	オンライン	2024年10月	35	
13	現代中東研究コロキウム第10回研究会	東京外国語大学本郷サテライト（ハイブリッド開催）	2025年3月	35	共同主催：現代中東政治研究ネットワーク

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	末近浩太	「中東の現代史を学び直す：危機の背景には何があるのか」	朝日カルチャーセンター京都教室	2024年6月11日
2	末近浩太	「シリアの読書案内」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン, Vol. 2	2024年4月1日公開
3	末近浩太	「台湾とイスラム教（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1面	2024年4月15日
4	末近浩太	「常識的な感覚（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1面	2024年6月7日
5	末近浩太	「選挙イヤーの2024年（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1面	2024年8月21日
6	末近浩太	「パレスチナ問題と中東情勢：紛争のメカニズムを考える」	大阪船舶倶楽部 2024年11月例会（大阪大学中之島センター）	2024年11月12日
7	末近浩太	「中東・西アジアと世界の戦乱がやむ日：平和をめざす3つの視点」	AJI グローバルシンポジウム 2025（オンライン開催）	2025年1月25日
8	末近浩太	「中東を脱神話化する：異文化理解と情勢分析のあいだで」	立命館西園寺塾 2024年度梅原文明コース（立命館東京キャンパス）	2025年2月1日
9	末近浩太	「中東現代史の100年：ガザ危機やアサド政権崩壊などの大激変を読み解く」	朝日カルチャーセンター新宿教室（オンライン開催）	2025年3月5日
10	末近浩太	「レバノン侵攻「限定的」主張 イスラエル、ヒズボラを追撃」	『朝日新聞』総合3面	2024年10月2日
11	末近浩太	「イスラエル 地上侵攻の狙い 報復どこまで」	テレビ朝日「モーニングショー」（パネル出演）	2024年10月2日
12	末近浩太	「イスラエルとヒズボラの戦闘激化」	TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」	2024年10月3日
13	末近浩太	「ヒズボラの現実（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊, 1面	2024年11月5日
14	末近浩太	「イスラエルとレバノンの停戦」	J-WAVE「JAM THE PLANET (News to Table)」	2024年11月27日
15	末近浩太	「ヒズボラ指導者の演説から停戦条件消えた」	朝日新聞デジタル	2024年11月28日
16	末近浩太	「実効性に不安も、散発的に攻撃起きる可能性」	『朝日新聞』国際面	2024年11月28日
17	末近浩太	「動き出したシリア内戦、各地の国際紛争が影響か 識者に聞く」	朝日新聞デジタル	2024年12月1日
18	末近浩太	「シリア反体制派、北西部の要衝へ進攻か 政権軍、反攻でアレッポ空爆」	『朝日新聞』総合3面	2024年12月2日
19	末近浩太	「世界情勢で崩れたバランス“停戦”でシリア内戦が再燃へ」	テレビ朝日「報道ステーション」（パネル出演）	2024年12月3日
20	末近浩太	「権力移譲、もめる可能性も（アサド政権崩壊について）」	時事通信（『西日本新聞』2024年12月10日付朝刊に配信・掲載）	2024年12月9日
21	末近浩太	「攻撃開始から10日余りで“首都制圧”背景は？シリア・アサド政権崩壊」	テレビ朝日「報道ステーション」（パネル出演）	2024年12月9日
22	末近浩太	「シリア独裁政権が突然崩壊 市民を弾圧…絶滅刑務所も」	TBS テレビ「サンデーモーニング」（パネル出演）	2024年12月15日
23	末近浩太	「シリア 暫定政権主導の指導者 “包括的な国づくり目指す”強調」	NHK 総合「NHK ニュース 7」	2024年12月15日

24	末近浩太	「強権化の懸念（シリア・識者談話）」	時事通信	2025 年 1 月 7 日
25	末近浩太	「トルコのシリア難民の期待と不安（現代のことば）」	『京都新聞』夕刊、1 面	2025 年 1 月 16 日
26	末近浩太	「地域研究と万博（現代の言葉）」	『京都新聞』夕刊、1 面	2025 年 3 月 27 日
27	山下範久	「鈴木董著『オスマン帝国の世界秩序と外交』」	『西洋史学』277 号、pp.86-88	2024 年 6 月刊行
28	嶋田晴行	「アフガニスタンの都市－バーミヤン」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン、Vol.2	2024 年 10 月 1 日公開
29	鳥山純子	コメンテータ International Seminar "International Perspectives on War Heritage, Memory and Museums in Japan"	立命館大学国際平和ミュージアムセミナールーム 1	2024 年 7 月 3 日
30	鳥山純子	「生き方を選ぶ自由－ジェンダーから見る平和ミュージアム」	立命館大学末川博記念館、第 2 会議室	2024 年 10 月 12 日
31	鳥山純子	「家族関係から考える、広義の「1 月 25 日革命」」	CMEIS「Book Launch」第 25 回『「アラブの春」のアクチュアリティ：エジプト一月二十五日革命を中心にみるグローバリゼーション下の日常的抵抗』、立命館大学中東・イスラーム研究センター、オンライン開催	2025 年 2 月 27 日
32	鳥山純子	AFMA 国際学会報告「Session 6 Security and Conflicts in the Middle East」	日本中東学会ニューズレター、No. 176、pp.25	2025 年 3 月 31 日
33	竹田敏之	「言語と宗教を学ぶ」	CMEIS Book Launch 第 24 回『中東を学ぶ：研究者が語る経験と魅力』立命館大学中東・イスラーム研究センター、オンライン開催	2024 年 10 月 23 日
34	馬場多聞	「イエメンのラスール朝と動物たち」	公益財団法人史学会「異文化交流の世界史」第 7 回講演会	2025 年 1 月 22 日
35	馬場多聞	「イエメンの自然と景観から ソコトラ島」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン、Vol.2	2024 年 4 月 1 日公開
36	馬場多聞	「イエメンの都市 ザビード」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン、Vol.2	2024 年 4 月 1 日公開
37	馬場多聞	「歴史を通してこの世界について考える」	立命館大学文学部教員コラム	2024 年 8 月 2 日公開
38	馬場多聞	「シリアと私 パルミラ遺跡の元遊牧民」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン、Vol.2	2024 年 10 月 21 日公開
39	馬場多聞	「溜めいているか？」	『アジアと日本 ことばの旅』第 7 回	2025 年 1 月 17 日公開
40	馬場多聞	「(彙報) ヨーロッパ・イスラーム史／西洋史学」	『立命館史学』、44 号、pp.110-111	2025 年 2 月 14 日刊行
41	黒田彩加	「イスラームとは何か」	阪神シニアカレッジ国際理解学科 1 年	2024 年 7 月 23 日
42	黒田彩加	「中東・イスラーム世界における宗教と政治」	阪神シニアカレッジ国際理解学科 2 年	2024 年 7 月 23 日
43	黒田彩加	「イスラーム過激派の源流」	阪神シニアカレッジ国際理解学科 3 年	2024 年 12 月 6 日
44	黒田彩加	「イスラーム思想の挑戦」	阪神シニアカレッジ国際理解学科 4 年	2024 年 12 月 6 日
45	黒田彩加	「イスラーム思想とジェンダー」	国際理解ゼミナール（兵庫県阪神シニアカレッジ卒業生による勉強会）における講演会	2024 年 12 月 19 日
46	池端蒔子	「サウディアラビアと私」	『アジア・マップ』アジア・日本研究 Web マガジン、Vol. 2	2024 年 4 月 1 日公開
47	足立真理	（コメンテーター）「上座仏教社会における高齢者のウェルビーイングと宗教実践：功德と自利利他の概念（代表：速水洋子）」	東南アジア学会 106 回研究大会、大阪大学	2024 年 12 月 7 日
48	足立真理	「生け簪の缶詰（特集『お供え』する人）」	月間みんぱく 2025 年 1 月号、pp.10	2025 年 1 月
49	足立真理	「＜書評＞茅根由佳『インドネシア政治とイスラーム主義—ひとつの現代	『アジア経済』、アジア経済研究所、第 66 巻(1)、2025	2025 年 3 月

		史—』, 2023 年, 282p.」		
50	ウェルズ桜	近代エジプトにおける「文明」言説の形成と今日的影響	日本学術振興会カイロ研究センター 2024 年度第 1 回定例懇話会	2024 年 5 月
51	ウェルズ桜	「横断的視点で近代エジプトを研究するーリファア・タフターウィーの文明論ー」	立命館大学大学院キャリアパス推進室 インタビュー 『大学院生の挑戦』	2025 年 1 月
52	ウェルズ桜	「UAE における価値観形成とグローバル発信の取り組みーアブダビを事例としてー」	CMEIS REPORT No.13	2025 年 3 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	末近浩太	『歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな中東地域研究の開発』	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
2	末近浩太	『歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな中東地域研究の開発』	基盤研究(A)（繰越）	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
3	末近浩太	『危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から』	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2022 年 10 月	2025 年 3 月	代表
4	末近浩太	『現代中東における「政治の宗教化」と「宗教の政治化」：ムスリム同胞団の比較事例研究』	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
5	末近浩太	『ハイブリッド戦争時代における新たな安全保障学の構築』	基盤研究(A)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	分担
6	末近浩太	『政治体制としての代議制民主主義の現状と可能性：東地中海地域の実例から』	基盤研究(A)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
7	小杉泰	『21 世紀イスラーム思想の 3 つの潮流：近代的普遍をめぐる対立と法典典の現代的解釈』	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	代表
8	吉川卓郎	『ヨルダン政治と部族社会：南部の政治・社会・経済に関する現地調査を中心に』	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	2019 年 10 月	2025 年 3 月	代表
9	吉川卓郎	『歴史的シリアにおける国家変容の研究：混合的手法による新たな中東地域研究の開発』	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
10	吉川卓郎	『危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から』	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2022 年 10 月	2025 年 3 月	分担
11	吉川卓郎	『現代中東における「政治の宗教化」と「宗教の政治化」：ムスリム同胞団の比較事例研究』	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
12	山下範久	『グローバル関係論の時間論的基礎付けのための比較理論研究』	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担
13	嶋田晴行	『米国の対アフガニスタン政策の失敗の要因とアフガニスタンの今後』	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
14	鳥山純子	『中東北アフリカ地域における遺産形成の批判的研究-移動の視点から』	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
15	鳥山純子	『2011 年革命後エジプト都市部における「ろくでなし」社会研究』	若手研究	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
16	竹田敏之	『ネット時代に復興する詩と語り物：アジア西方イスラーム圏のオーラル文化の現状と展望』	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
17	竹田敏之	『21 世紀イスラーム思想の 3 つの潮流：近代的普遍をめぐる対立と法典典の現代的解釈』	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
18	馬場多聞	『中世のイエメンにおける人々の移動性に関する研究』	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
19	馬場多聞	『イスラーム共同体の理念と国家体系』	学術変革領域研究(A)	2020 年 11 月	2025 年 3 月	分担
20	小澤一郎	『交易・交流の場としてのマクラーンと近代』	若手研究	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
21	ダヌシュマン・イドリス	『日本社会へのイスラームの土着化：モスクの説教に見られる多文化共生観の役割と影響』	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表

22	ダヌシュマン・イドリス	『ネット時代に復興する詩と語り物：アジア西方イスラーム圏のオーラル文化の現状と展望』	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
23	ダヌシュマン・イドリス	『非アラブにおける穏健イスラームの研究－インドネシア・パキスタン・トルコの事例から』	基盤研究(A)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
24	ハシヤン・アンマール	『アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築』	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
25	ハシヤン・アンマール	『イスラーム法のワフアー（契約の誠実履行）の概念と適用：社会・経済の信頼関係から』	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2025 年 3 月	代表
26	ハシヤン・アンマール	『21 世紀イスラーム思想の 3 つの潮流：近代的普遍をめぐる対立と法典抛の現代的解釈』	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
27	ラシット・フセイン	“Journalists of the Empire: Capitalism, Imperialism, and Misinformation”	若手研究	2024 年 4 月	2026 年 3 月	代表
28	アシャデオノ・フィトリオ	『気候変動への対応策と農業現場での政策主体インドネシア・コーヒー農協のG I 取組み』	若手研究	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
29	黒田彩加	『新たなイスラーム政治哲学の誕生と展望：民主化後退後のアラブ世界の自由・善・公正』	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
30	黒田彩加	『アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築』	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
31	池端蒔子	『中東の国家間対立と「公的イスラーム」の役割：国家の正統性と法学者ネットワーク』	若手研究	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
32	池端蒔子	『イスラーム諸国の信頼醸成と合意形成：人類互敬：同胞精神と現実政治の拮抗の中で』	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月 -	2025 年 3 月	代表
33	池端蒔子	『危機下の東アラブ諸国における社会的レジリエンスの実証研究：ヨルダンの事例から』	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2022 年 10 月	2025 年 3 月	分担
34	桐原翠	『2020 年代のイスラーム経済：マレーシア発ハラール経済イニシアチブの戦略と展望』	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
35	足立真理	『アジア・ムスリム諸国の相互扶助の新展開：ポスト新自由主義期のイスラーム経済再構築』	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2026 年 3 月	分担
36	足立真理	『イスラミック・ツーリズムにおける観光経験の宗教資源フローをめぐる実証研究』	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	立命太郎	〇〇に関する研究	△△財団・若手研究者奨励金	2014 年 5 月	2015 年 3 月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録（特許）番号	国